

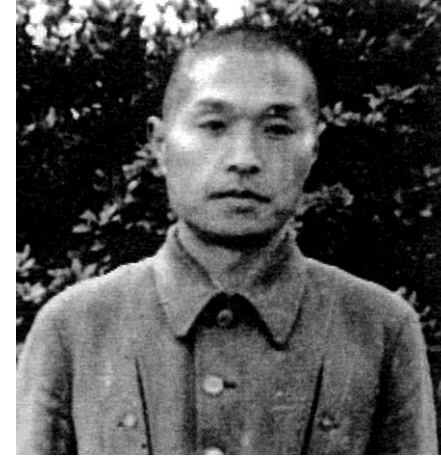
# 慶應義塾大学工学部体育会 山岳部75年の歴史



これは、藤原工業大学予科以来の工学部山岳部 75年の歴史である。

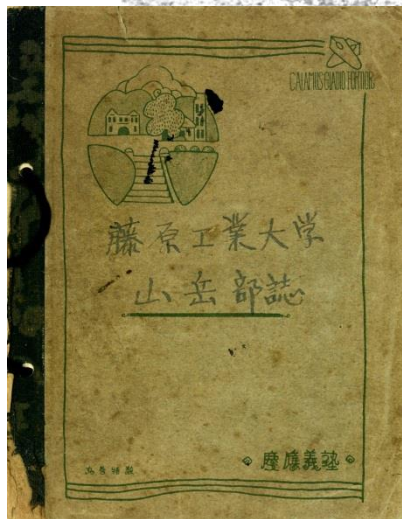
# 1. 創部と戦争の頃 藤原工業大学山岳部として発足(1939年～1944年)

## 旧制高校的な青春謳歌と自己修練の場 1939年12月20日に発足



部長 酒井 将

(5期生卒業50年記念誌より)



部長

金原 三郎 1939.12.～1940.3.

(ドイツ語 慶應義塾大学予科教員)

酒井 将 1940.4.～1949.3.

(体操 慶應義塾普通部教員)

発会式 昭和十四年十二月廿日、  
於東横グイル。

# 1940年12月 赤倉スキー合宿

# 1944年8月 南アルプス北岳



昭和十五年十二月十八日  
 山岳部赤倉スキー合宿  
 於藤原先生別荘  
 参加者 山口芳久(リーダー) 山本田中 鈴木  
 直 水野 明星 市南 龍介 甘泉 羽鳥  
 先生 酒井先生  
 日程 十時=上野次=前街在堂集合  
 五時=下山  
 五時二十分=別荘集合  
 酒井

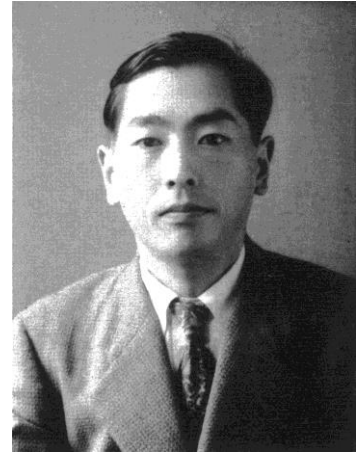
**スキー合宿記録**  
**藤原理事長別荘**



山岳部が誕生すると、早速、岩原でスキー合宿。戦争が始まって  
 1942年くらいまでは山に。1943年に大学生徴兵猶予停止。豊川海  
 軍工廠での動員。山どころではなくなる。1944年9月に1期生が卒業  
 すると同時に慶應義塾大学工学部となる。1945年4月日吉空襲。  
 校舎炎上。工学部は、目黒、溝口、登戸、そして小金井へ。

# 2. 小金井時代 慶應義塾大学藤原記念工学部山岳部 (1949年～1972年)

- ・ 1949.4.1. 新制慶應義塾大学藤原記念工学部発足
- ・ 1949.12. 松廣講師遭難(夜叉神峠)



部長 鈴木登紀男  
1949. 4. -1962. 9.



新部室20期頃に  
新築の学生ホールへ

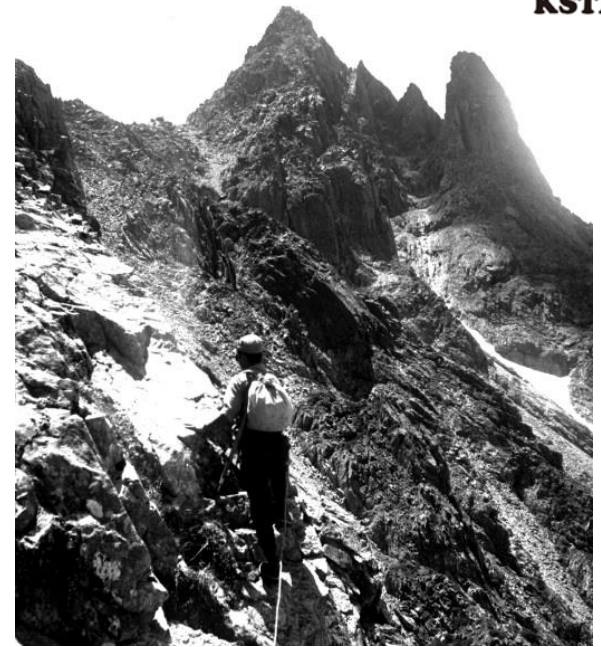
旧部室  
ボイラー室



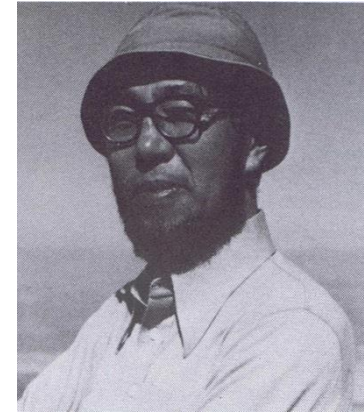
小金井校舎 (旧 横河電機工場)

12期(1955)アルバム

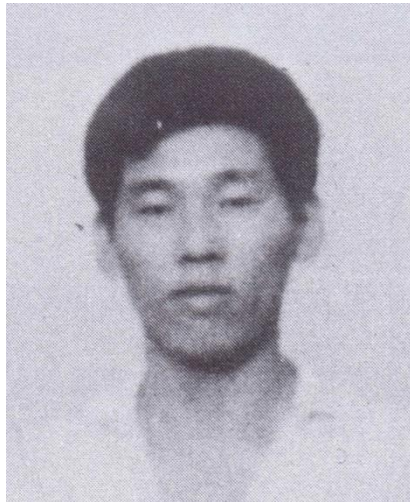
- ・ 体育会との連携. 大学山岳部としての活動模索
- ・ 1954年 医学部富士山事故を契機にOB会発足
- ・ 1961年 日吉の一年生部員を迎え, 4年制として活発な活動.
- ・ 夏の合宿は北ア千丈沢, 涸沢から, 自ら拓いた 横尾右俣へ



- 1967年 甲斐駒ヶ岳尾白川 吉田
  - 1972年 鹿島槍ヶ岳赤岩尾根 細田
- 2度の遭難事故を起こすこととなり、  
OB会を含めた山岳部全体の反省と議論。  
Leadership / Membership は山岳部の  
行動規範として現在に継承



部長 小茂鳥 和生  
1962.10.-1981.8.



吉田 裕  
29A  
1967.10.27




細田勇吉  
30E  
1973.3.16.



甲斐駒ヶ岳

# 3. 矢上時代 ① (1972年～1980年代)

- ・1972 矢上台に移転(日吉復帰)
- ・1981.8 小茂鳥部長逝去 → 清水部長



部室



部長 清水 真佐男  
1981.9.～2003.3.



39期(1981)アルバム

- ・年間を通じて全員参加の合宿と  
有志参加による自主山行が 活発に行われた



1974 夏千丈沢



1978 初冬 鹿島槍



1979 初冬 遠見尾根



1980年  
夏  
剣岳



1981年  
春山  
笠ヶ岳



- 1983年には創部40周年を記念して海外遠征を実施し、  
インドヒマラヤ Cathedral ( 6400m ) 登頂 1983.7. – 9.



宮坂 井上

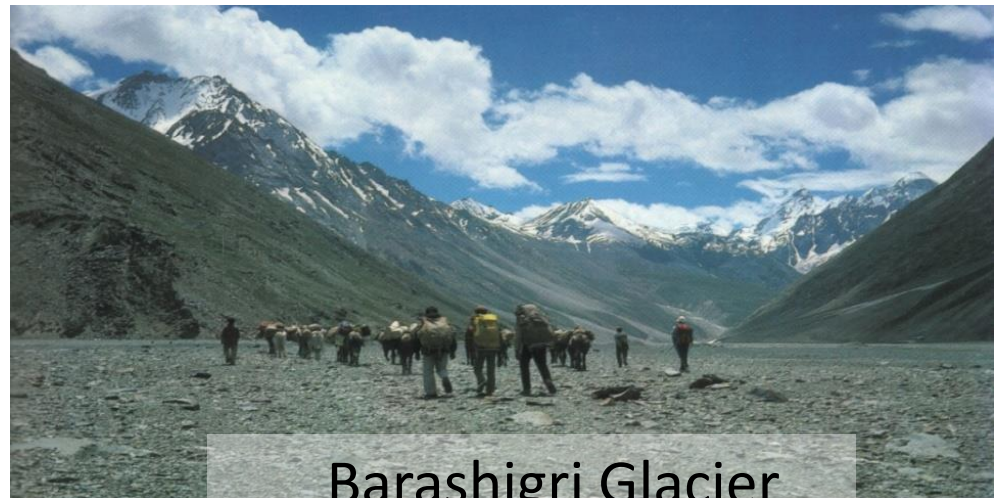


中田



高塚 梅村 中田 坂元(医学部)

1983年の夏山合宿は、  
海外登山に参加しない  
部員により、海外登山と  
並行して例年通り、  
確実に実施.



Barashigri Glacier

## 4. 矢上時代 ② (1980年代 ~ 2006年)

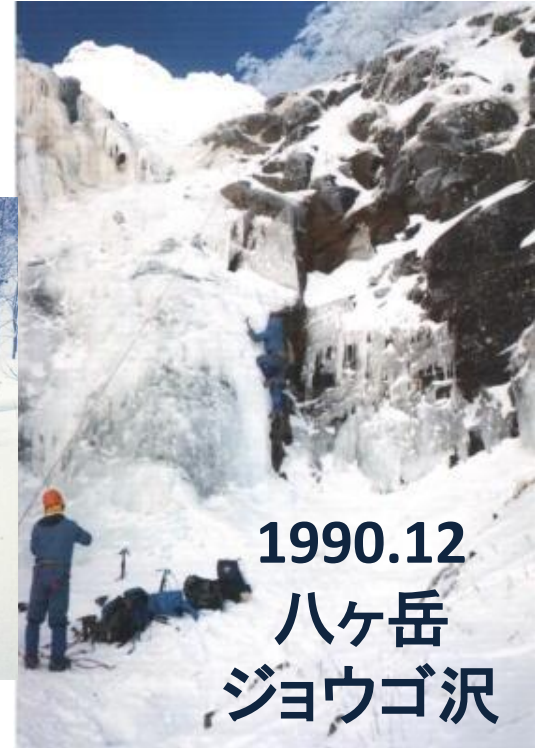
- ・慢性的部員不足はより深刻になり、1996、2006年に部員ゼロとなる。しかし、その都度、入部希望者があり、歴史は続いている。



1986.11.雪上訓練  
富士山



1987.3. 槍平小屋付近  
ラッセル



1990.12.  
八ヶ岳  
ジョウゴ沢



2000.8.  
丹沢 玄倉川

2001.8.  
剣岳  
源次郎尾根



・1991～1996年日本山岳会学生部 北米マッキンリー気象観測プロジェクトに参加。観測機器を設計制作。第3, 4, 5次登山隊として登頂。第5次隊では, 中村(50B)がリーダーとして, 他大学部員も統率。これにより, 長谷川(47I), 中村(50B), 千葉(48M),

高橋が(54B), 2009年に理工学部同窓会表彰を受ける。



機器設置点に向けての観測機器の荷上げ。最後尾は高橋。第5次隊(1994.6)。



第5次隊における:観測機器の設営:左高橋, 右柳沢(上智大)。(1994.6)。

- ・1999年8月に、創部60年を記念して穂高にて記念登山を実施：  
現役部員も含め63名が参加。



## 5. 矢上時代 ③ 創生プロジェクト (2006年～)

- ・1996年と2006年で部員がゼロ。  
これを、どう切り抜けるかが課題となる。



**部長 鈴木 哲也**  
2003.4.～2006.3.



**部長 相吉 英太郎**  
2006.4.～2013.9.

**創生プロジェクトスタート  
環境問題を山登りに導入  
監督, コーチ制度を新設**

## 経緯

- ・1970年代より部員減少傾向
- ・1996年と2006年で部員がゼロ
- ・2006年創生プロジェクトが山岳部長及びOB会の合同企画として始まる

## 目的

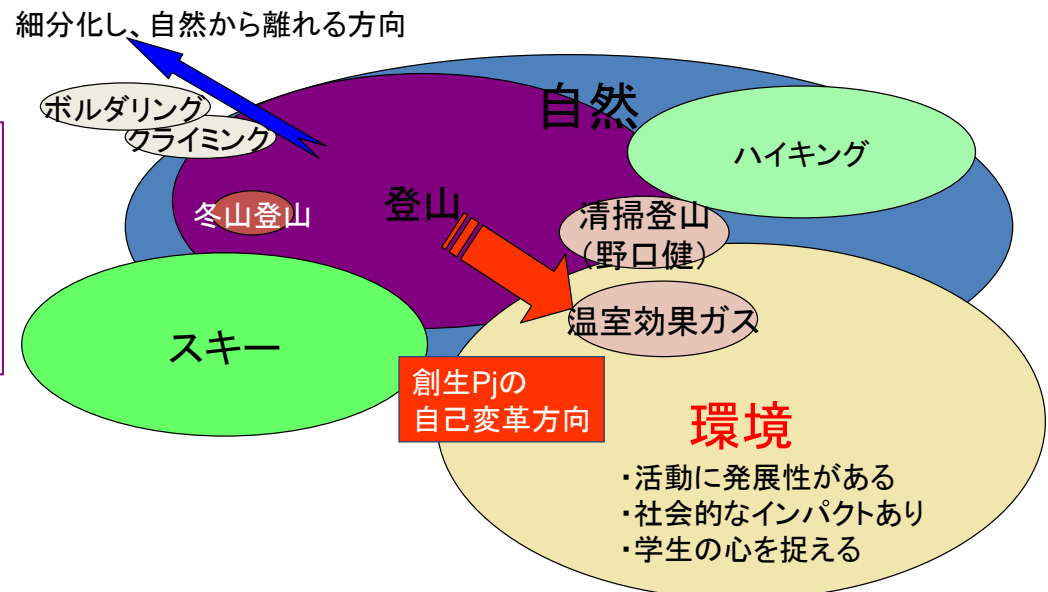
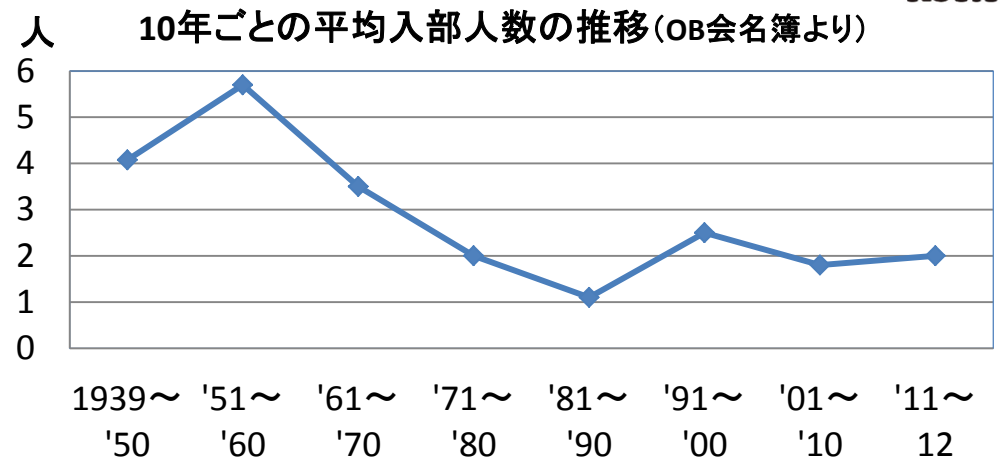
理工学部山岳部の文化/普遍的理念を現代の学生に伝える

## 目標

OBの意識を含めた山岳部の自己変革により、山岳部の新しい機能的価値を見つけて、現代の社会/大学/学生に受け入れられる山岳部を創生すること

## 成果

2007年 新入部員5名入部  
 2008年春、環境シンポジウム実施  
 同年秋、土壌肥料学会にて発表  
 2008年以降も継続して入部者を迎え、定期的に山行を実施している



- ・山岳部 ≠ 登山
- ・山岳部はその時代の pioneer work を求めるべき存在
- ・現代の pioneer work は、環境である
- ・環境は理工学部の山岳部の特徴が発揮できる

## 6. 明日の山岳部を目指して : 現役部員たち



2014年5月 大菩薩峠

75年間で社会や大学は大きく変貌。山岳部は、山というフィールドにおいて Science & Adventure を基本理念に置き、Pioneer work, Leadership/ Membership という文化を、学生たちに伝え続けていく。



部長 神原陽一  
2013.10.~



2013年 山岳地域での  
放射線測定